

## 税と向き合う

三条市立大崎学園 9年 齋藤 陽稀

「税金」について考えても何も思い浮かばなかった私は、インターネット等で調べたところ、日本には四十種類以上もの税金があり、国民全員が納めています。その中でも私達にとって一番身近な税は消費税です。今まで何気なく納めていた消費税ですが、そのお金はどこで使われているのかというと、医療などの社会保障関係費や、道路や建物を整備するための公共事業費、教育や科学技術のための文教及び科学振興費など、私達のためになるようなものばかりでした。

中でも、税金の歳出予算が一番多いものが社会保障関係費です。これは、医療・介護や福祉、年金などの経費です。つまり、大きなケガや病気になった時、高齢者や子供の医療費などを税金が補い、安い料金で安心して国民が健康を維持することができます。

私は小さい頃、病気がちでしたが、この制度のおかげで高いお金を払うことなく何度も病院を利用することができたこと両親から聞きました。また、私の祖父は腎臓の病気のためほぼ毎日病院に通っていますが、高度な医療を安心して利用できるのも、税金があるからではないでしょうか。このように、私達が納めている税金は、安心・安全で暮らしやすい日本にするため、あらゆる場所で使われています。

そんな、私達の暮らしを支えている税金ですが、税金の支払いとなると、「正直面倒だ」とか、「払いたくない」という不満の声がある一方で、より多くの国の負担を望む声をニュースで多く聞くことがあります。この矛盾する背景には高齢社会の問題と、コロナウイルスの流行が大きく関わっていると考えます。

税金は、主に働いている二十～五十代の人が多く納めています。その一方で高齢者も納めているものの医療や介護などで、税金を利用しています。そんな高齢者が増加する現代では、社会保障関係費が年々増加しています。

加えて、コロナウイルスの流行により、医療やワクチン接種などの対策や、大きな影響を受けたお店やサービス業などの支援のために、多くの税金が使われています。そのため、今後税負担が増える可能性があります。

この矛盾や不公平感を解消するため、みんなが、税金の負担方法や、使い方について、考え、今の社会に合った方法を考える必要があると思います。

税金は、私達が何気なくあたり前だと思っていたような所に使われ、暮らしを支えてくれています。その反面、納めるという事は、時に大きな負担を背負い、不満が生まれる事もあります。大事な事は、お互いに支え合いより良い社会をつくっていくために、税金が正しく使われ、国民のために役立っている事を知り、税金を納める対価とそのありがたさを私達自身が実感し、税と向き合うことです。そして国民全員が社会の一員として税を納めるということが、何より大切だと思います。